

JA 東能登川『自己改革』の取り組み状況

平成 30 年 12 月 31 日現在

農家組合員の所得増大

- 施設共同利用による品質の均一化と農家コスト削減
 - ・ 米、麦、大豆の共同乾燥調整施設利用による品質の均一化と農業機械コスト削減
 - ・ 育苗施設での温湯消毒の実施による環境負荷低減と農薬等資材費の削減
- 生産調整にかかる交付金の経理一元化への取組【平成 30 年産 麦・大豆より】
 - ・ H30 年産 4 集落で取組 → H31 年産 5 集落で取組
- 肥料農薬の事前予約を実施
 - ・ 水稻肥料農薬設計基準書の農家取りまとめを全職員で実施し、一括仕入れにより、安価で提供
 - ・ 作業負担軽減と低コスト化を目的とした水稻元肥一発肥料 15 kg 袋「これいいね」、水稻中期除草剤「セカンドショットジャンボ剤」、土壌改良資材「とれ太郎」「はたけ太郎」の 200 kg フレコンおよび水稻・麦・大豆用除草剤の大型規格の導入
 - ・ 適正な肥料設計に向けた土壌診断の実施
- 水田利用型園芸作物の推進・生産指導
 - ・ 契約かぼちゃ、加工用玉ねぎ、加工用キャベツ、サラダカボチャ等の推進・生産指導
- 水田利用型野菜用農業機械をJAで導入し共同利用と作業の一貫化
 - ・ JAで農業機械を導入し共同利用と一貫作業を行い、コスト低減と労力軽減
- ビニールハウスレンタル事業の実施
 - ・ 農家の初期投資低減を図り生産意欲向上に務め、直売所菜々笑への農産物出荷を促進
- (株)アグリやわたの郷と連携した農作業支援体制を充実
 - ・ コンバインによる大豆収穫、キャベツ育苗・定植、ビーグルによる大豆・水田野菜の防除等の実施
- 収入保険制度に向けた青色申告記帳研修会の開催
 - ・ 農産物価格下落にかかる所得低減を補填する制度の要件になる青色申告の記帳研修会を実施

農業生産の拡大

- 契約かぼちゃ 0.2 ha、加工用キャベツ 4.5 ha、玉ねぎ 1.4 ha、小豆 2 ha、サラダかぼちゃ 1000 本
 - ・ 定植前契約で、価格が提示されており安定した所得確保
 - ・ 市場状況に応じた出荷で高値の取引

地域の活性化

- 農産物直売所・加工所 菜々笑の運営充実
 - ・ 直売所では品目の充実と品質向上、加工所では惣菜メニューの増加
 - ・ 定期的な菜々笑フェア、イベント等開催
- 農業まつり・夏まつりの開催（農業まつり 12 月と夏まつり 7 月に開催）
- カルチャー教室の開催
 - ・ JA 女性部を中心とした地域女性活動【ガーデニング・ベビーカー・リミックなど 6 教室】
- 能登川東小学校児童や地域の子供を対象とした食農教育の開催
 - ・ 田んぼの学校、わくわく農園を開催し農業の大切さを伝承
- 営農経済部門との連携体制を強化し、農業メインバンク機能を発揮
 - ・ 農業資金を低金利、保証料負担無しでご利用いただける、融資農業資金応援キャンペーン（アグリマイティー資金）の実施
- 相続相談会の実施
 - ・ 個々の相談者（農地等の資産など）に対応した相続相談の実施
- JA 東能登川地域農業者連絡協議会の活動
 - ・ 園芸野菜先進地研修会の開催（南あわじ市）
 - ・ 県議会議員、市議会議員を迎え意見交換会の開催